

少人数学級について

1 事業の経過

○鳥取県が協力金方式で少人数学級を実施

平成14年度から・・・小学校1、2年生（30人学級）

平成15年度から・・・中学校1年生（33人学級）

○本市においては、当初よりこの制度を活用して少人数学級を実施している。

2 事業の概要について

○ねらい 小学校1、2年生と中学校1年生というそれぞれの学校の入門期において少人数の学級を編制し、個に応じたきめ細やかな指導の充実を図る。

※さらに現在では、その他の学年でも学校の要望により研究指定校方式（研究指定に関わる加配教員の活用）による少人数学級編制を行っている。

○平成22年度の実施状況

学校名・学年	児童 生徒数	少人数学級		40人学級で編制した場合	
		学級数	1学級あたりの人数	学級数	1学級あたりの人数
河北小・1年	66	3	22	2	33
社小・1年	61	3	21	2	31
東中・1年	111	4	28	3	37
河北中・1年	108	4	27	3	36
※西郷小・3年	39	2	20	1	39
※上灘小・3年	38	2	19	1	38
※東中・3年	118	4	30	3	40
※久米中・3年	40	2	20	1	40

※＝研究指定校方式による少人数学級編制

3 少人数学級の成果と課題について

【成果】

- ・少人数のため教師の目が行き届き、きめ細やかな指導ができる。
- ・落ち着いた環境で学ぶことができ、子ども・保護者の安心感がある。

【課題】

- ・学年があがり大人数になった時、学級のまとまりがなくなる場合が見られる。
(特に小学校3年生の学級経営が課題となる)